



まほろばの丘から

令和5年8月25日 文責 校長 江口 尋信



前期後半が始まりました

夏休みはいかがお過ごしでしたか。夏休みの初日に、県内の児童3人が河川で溺れて命を落とすという痛ましいニュースが飛び込んできました。また、部活動の帰りの中学生や、体育を終えた小学2年生が倒れ、残念ながら命を落とすというニュースも報道されていました。改めて命の大切さや重さを考えさせられた夏休みだったように思います。

今日から前期後半が始まりました。先述のニュースの件もありますから、子どもたちの安全や健康状態に十分気を配り、教育活動を進めていきたいと思います。

夏祭りにて

感染法上、新型コロナが2類から5類へと移行し、社会全体がコロナ禍前の賑わいを取り戻しつつあります。この夏休みに旅行に行ったり、里帰りをしたりしたご家庭も多いのではないかと思います。地域でも、ここ数年自粛したり縮小したりしてきた「夏祭り」が盛大に開催されました。（※向佐野地区は秋祭りを実施します。）わたしも、各地区の夏祭りを覗かせていただきましたが、子どもたちが学校とは違った表情でいきいきと楽しんでいる姿を見ることができました。この体験は、子どもたちが大人になったとき、懐かしい思い出、原風景としていつまでも心に残るのではないかと思います。



（左）子ども神輿をかつぐ子どもたち。法被姿がとても似合っていました。



（右）ヤクルト早飲み大会に出場する子どもたち

慶応高校の優勝から

先日、夏の全国高校野球の決勝戦で慶応高校が仙台育英高校に勝利し、107年ぶりに優勝しました。実に107年ぶり2回目の優勝だそうです。森林監督は試合後のインタビューの中で「慶応が優勝することで、高校野球の新たな可能性とか多様性とか、そういったものを何か示せばいいなと思って、日本一を目指して常識を覆すという目的に向かって頑張ってきた。」ということをお話していました。ご存じの通り、慶応高校野球部は「野球部＝丸坊主」「勝利至上主義ではなくエンジョイベースボールを」という点から、優勝前から大きな話題を提供していました。

楽しいからこそ続けられる、楽しいからこそ自分たちで考え工夫する……。 「好きこそ物の上手なれ」（好きなことは上達しやすい）という諺があります。慶応高校の優勝を通して、常識にとらわれないこと、楽しんで取り組むことの大切さを教えてもらいました。